

2008年度補正予算の概要について

1. 消費収支予算書（補正）

- 消費収入の部 -

学生生徒等納付金

補正額 2,784 万 6 千円の減額。主な要因は、学生生徒数が全体で 267 名減少し、入学金収入 2,526 万円、授業料収入 572 万 7 千円がそれぞれ減少したことによる。（ただし、当初予算の際、授業料については入学者数、入学金については定員に基づいてそれぞれ当初予算を見込んだため、入学金収入については、定員数と実際の入学者数との差異により、補正額減幅が大きくなった。）積算基礎となる学生・生徒等の数は、短大 624 名（△103 名）、中・高等学校 1,371 名（藤森キャンパス 932 名（△90 名）、香里キャンパス 439 名（△28 名）、小学校 1,402 名（藤森キャンパス 900 名（△35 名）、香里キャンパス 502 名（6 名）、幼稚園 166 名（△17 名）、計 3,563 名（△267 名）。

手数料

手数料の 95.2%が入学検定料である。補正額 44 万 6 千円の増の主な要因は見込みより受験者数増による入学検定料の増加である。

寄付金

藤森キャンパスのプール更衣室建替えにあたり、後援会から 6,400 万円の寄付、また保護者会から、中学・高等学校による卒業記念の現物寄付金、特別寄付金があったため、当初予算より 8,320 万 8 千円の増加となった。

補助金

補正額 6,142 万 7 千円の減額。主な要因は、大阪府私学運営費補助金の削減による 7 千万円の減少、および入学者の減少による補助金の減少 3,987 万 1 千円、また学院小中高においては補助金 4,844 万 4 千円の増加によるものである。

資産運用収入

補正額 831 万 5 千円の増額。金融機関の利息が引き上げられたことや、仕組債等の利回りアップの他、本年度から始めた駐車場の貸し出しによる施設利用料収入（204 万円）等により増加した。

事業収入

532 万 4 千円の増額。主な増額の原因は、学童保育による収入および購買品売上による収入増がある。（当初予算では純額で表示していたが、補正予算では総額表示としている。）

雑収入

補正額 3 億 2,935 万 6 千円の大幅増となる。主な要因は、早期退職優遇制度の実施による退職者および自己都合退職者等による退職金財団交付金 3 億 1,389 万 4 千円の増額である。またそれに付随する退職給与引当金修正戻入額の増額による。

基本金組入額

補正額 4,761 万 6 千円の組入増となる。第 1 号基本金は短大の空調設備改修工事（3,150 万円）、藤森キャンパスのプール更衣室建替工事（6,300 万円）、空調機器更新

工事（800万円）、香里キャンパスのガスヒーポン取替工事（1,129万円）等の実施によるものであり、第2号基本金、第3号基本金の組入れは現在行っていない。

帰属収入合計から基本金組入額合計を差し引いた消費収入の部合計は36億6,315万8千円となり、寄付金および雑収入（退職金財団交付金等）の影響で、当初予算より2億8,976万円の増となる見込みである。

- 消費支出の部 -

人件費

補正額4億6,404万2千円の大幅増となる。当初予算より期末勤勉手当が0.2カ月増となったことと、早期退職優遇制度の実施による退職者、自己都合退職者等の退職給与引当金繰入額を3億9,977万6千円増額したことによる。（退職予定者は31名。内早期優遇退職者は22名。自己都合退職者9名。）

教育研究経費

補正額5,770万7千円の増額。教育図書433万7千円増、印刷製本費364万3千円増の他、保守および修繕費の3,287万4千円増が主な要因である。これは2007年度において、大規模な設備改修等を見送った関係上、本年度は、香里キャンパスの屋上、外壁の改修工事、藤森キャンパスのプール更衣室建替え、短大本館空調設備改修工事等を実施したことによる。これら補正額増額分は予備費より補填した。

管理経費

補正額4,779万4千円の増額。主な要因は進学雑誌をはじめとした広告掲載料等短大の広報費が見込みより2,361万円増となった他、各所属において消耗品費等の費用が見込みより増加したことによる。これら補正額増額分は予備費より補填した。

予備費

補正額1億2,360万円の減額。教育研究経費および管理経費節減における予算外支出が減額となったため。

事業活動に必要と見込まれる人件費、物件費等の消費的な諸経費の総額である消費支出の部合計は、40億9,693万7千円で、早期退職優遇制度の実施により退職者が多くなり、当初予算より4億4,601万円増加する見込みである。

その結果、当年度消費収支差額は、3億6,754万9千円の支出超過となり、大阪府の補助金カットが大きく影響して当初予算より9,147万円支出超過が増える見込みである。

前年度繰越消費収支差額20億7,973万3千円の支出超過を加えた翌年度繰越消費収支差額は、24億4,728万2千円の支出超過となる見込みである。

なお、翌年度繰越消費差額の内訳は、法人41億3,870万5千円の支出超過、短期大学27億2,908万3千円の支出超過、女学院中学・高等学校8億5,033万3千円の支出超過、大阪聖母学院小学校1億4,350万5千円の収入超過、学院中学・高等学校37億3,844万5千円の収入超過、学院小学校14億8,943万2千円の収入超過、幼稚園1億54万3千円の支出超過である。

2. 資金収支予算計算書（補正）

消費収支予算書における収支科目と内容的に相違のない科目については省略する。

- 資金収入の部 -

前受金収入

当初予算より 1,417 万 3 千円の増額。2007 年度中に入金が見込まれる 2008 年度の入学納付金が当初予算より増加している主な要因は、入学辞退者を多めに見込んでいたが、実際の入学者が見込みより増えたことによる。

その他の収入

1 億 168 万 6 千円の増額。当初見込みより前年度退職者が多く出たため、前年度決算の結果、前期末未収入金が退職金財団交付金等で 8,082 万 3 千円の増額となったことが主な要因である。

資金収入調整勘定

△2 億 7,869 万 6 千円の増額補正の主な要因は、退職金財団交付金（2009 年 6 月受入予定）であり、見込みより退職者が多く出たことによる。

この結果、当年度中に入金が見込まれる資金総額である当年度収入合計は、45 億 8,455 万 3 千円となり、当初予算より 1 億 6,254 万 4 千円増となる。これに前年度繰越支払資金 11 億 57 万 2 千円を合わせた収入の部合計は 56 億 8,512 万 5 千円で、寄付金、退職金財団収入、繰越支払資金等の影響で、当初予算より 2 億 4,056 万 3 千円増、率にして 4.5% の増加となる見込みである。

- 資金支出の部 -

人件費支出

当初予算時の退職金支出には定年退職者分のみを計上しており、補正額でその他早期退職者の退職金を含んだものに補正したための増額が主な要因である。

教育研究経費支出

消費支出の教育研究経費 6 億 7,948 万 3 千円から減価償却額 2 億 5,345 万 1 千円を差し引いた額である。

管理経費支出

消費支出の管理経費 2 億 4,284 万 5 千円から減価償却額 1,516 万 9 千円を差し引いた額である。

施設・設備関係支出

補正額 9,508 万円、および 989 万 3 千円の増額の主な要因は、短大の空調設備改修工事（3,150 万円）、藤森キャンパスのプール更衣室建替え工事（6,300 万円）、空調機器更新工事（800 万円）、香里キャンパスのガスヒーポン取替工事（1,129 万円）等大型工事費用増による。

資金支出調整勘定

補正額 6 億 3,714 万 5 千円の増額。主な要因は、当初見込みより退職者が増えたための退職金支払支出（2009 年 4 月支払予定）増加による。

事業活動に必要と見込まれる資金総額である当年度支出合計は、48 億 1,616 万円となり、当初予算より 2 億 4,195 万 3 千円支出超過が増える見込みである。

この結果、2008 年度に繰り越すことになる次年度繰越支払資金は、8 億 6,896 万 5 千円と当初予算より 139 万円、率にして 0.16%の減少、また前年度決算より 2 億 3,160 万 7 千円の減少となる見込みである。

学院全体では施設・設備の改修等により次年度繰越支払資金が前年度繰越支払資金を下回る内容となった。今後一層の人件費並びに経費節減に努めていきたい。